

客込奥庭中二階温泉石滑暖如蒸酒肴色々喰來處洗出鯉魚數片冰

武藏屋濃漿 向島

向島高名武藏屋春花秋月客來頻葛西太郎今何在一碗濃漿風味新

海老屋料理 王子

欄干四面水潺湲王子一番普請般初午稻荷權現祭晚來賣切客空還

〔浪華の賑ひ 二篇〕浮瀬

此遊宴の樓は新清水の坂の下にありて風流の席なり遙に西南を見わたせば海原往來ふ百船の白帆淡路島山に落かゝる三日の月雪のけしきは言もさらなり庭中には花紅葉の木々春秋の草々を植て四時ともに眺めに飽ざる遊觀の勝地なり名にしおふ浮瀬幾瀬の貝觴をはじめ種々の珍觴又七人狸々の大きかづき等を秘藏す浪花に於て貨食家いかりやの魁たるものなり

一方樓

此家は難波村中の東にあり江南隨一の大貨食家にして宴席廣く美を盡し庭前の林泉風流なりさる程に諸祝儀の振舞構内の參會數百人の集客をも引うけて饗應ごと他の小料理屋の及ぶ處にあらずさればとて一兩輩の遊客たりとも其饗應程よくして歡樂せしむるは流石練磨の功といふべし原より座敷料理むき萬寛濶にして苛つかず僅の杯を傾るにも花街に譬れば揚屋大青樓等に遊ぶ心ぞせらる

仕出

〔皇都午睡 三編上〕貨食に名高き鳥越の八百善は以前は客の詔らへにて自由なること出來たれ

ど當時は精進料理の仕出しのみをして町家にて三十人五十人の法事佛事あれば詔らへに任せ朱黒青漆とか膳碗家具迄残らず取揃へ引菓子に至る迄揃へ送り膳の提箱迄持來りて勝手混雜なく殊に辨利よろし諸道具は火早き所ゆゑ内に有ども遣はず皆詔らへること也